



開
大日本往來
三



茅八岩代國九郡カク五亭
信夫しんぶ安あ積せき岩い瀨せ伊い
達たつ舍あ律ら那な麻ま大おほ泥ぬ河か
泥ぬ等ら如ごと其その高たか七しち松しょう五ご等ら
五ご子し七しち百ひやく石いし解と之の今いま律ら乃なり

五等文庫

若松和養より福島山両廳
 ある。山國より西北者。
 越後より地代隣を全
 取東より宇もら子け南へ
 あり。阿武隈川今津の

川冬海を了り越路の
 あり。方々の程ゆく相苗國
 乃舊蹟ハ信步人又子指
 涉より山あを色く糸の悪
 海乃跡名泥ぬし教度

五何ノ氣候と地より
桑田ノ其產物と蟹
安産油生ハ多ク
凍蠟燭是名也

第九陸海國十四郡特産

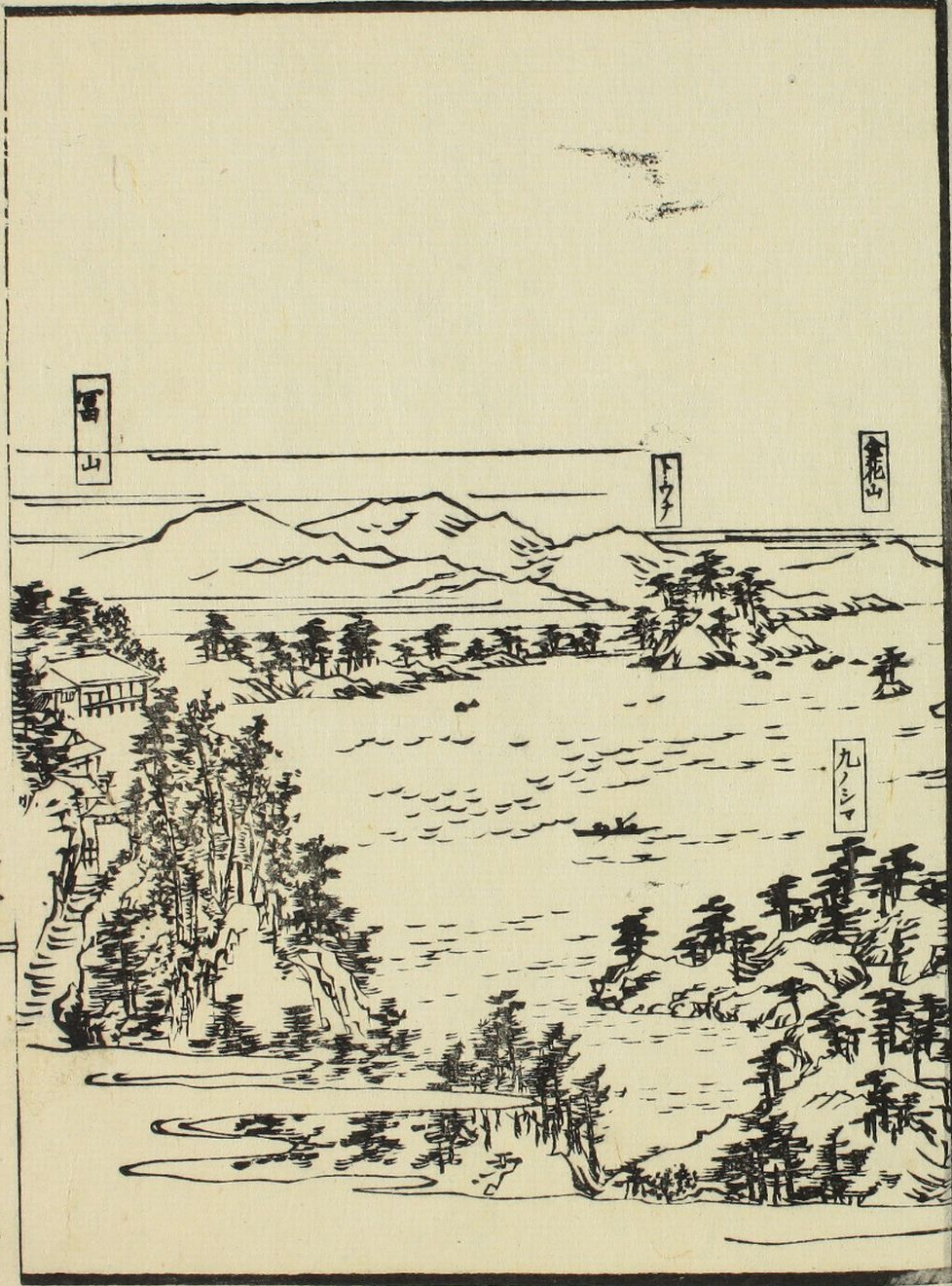
概生幸田志多賀賀賀賀
川字棟名取桑田本吉
紀米栗原玉生(音)仙
也生(音)六十(音)八子石
元仙其(音)肥枝(音)城

和^け多^た市^し一^一有^有り。西北^{西北}羽^羽前^前よ
埋^埋し^して。東^東南^南凡^凡く海^海邊^邊之^之
気^気候^候と温^温味^味よ水^水利^利と
五^五穀^穀運^運至^至饒^饒の地^地有^有り
斗^斗り。相^相考^考由^由玉^玉の名^名傳^傳る。

五^五嶽^嶽和^和より五^五里^里東^東こころよ
名^名高^高る五^五海^海灣^灣と雄^雄島^島嶺^嶺
釜^釜五^五大^大堂^堂。幾^幾千^千年^年の嶼^嶼
よ。孰^孰き後^後古^古和^和枝^枝を垂^垂た
社^社碧^碧石^石海^海野^野波^波悠^悠々^々と東^東

乃沖よ金嶽山西より遙
 の富士の嶺百景こころや
 とまめては詩歌き詠ん
 華代持性松もや
 名松ゆくと貴嶽す其

他勝状利府の里利府此
 寺の名慶華水や壺の碑
 玉川等集へ此年くるま遑
 ち産物類と五穀紙
 金海荒村木油類埋木



陸前
の國
松島の
真寫



号^{ごう}出^{しゅつ}水^{すい}次^じ。

茅^{こく}十^{じゅう}陸^{りく}中^{ちゅう}國^{こく}十^{じゅう}郡^{ぐん}江^え刺^{さし}。

磐^い石^は井^め岡^へ伊^い和^わ智^ち人^{にん}得^{とく}世^{せい}貫^{くわん}。

此^{こゝ}少^{すく}波^は岩^い手^て子^この^の戸^こ唐^{たう}角^{かく}木^{ぼく}。

也^や其^{その}高^{たか}四^し千^{せん}二^に百^{ひやく}三^{さん}十^{じゅう}。

石^{こく}解^げ元^{げん}盛^{せい}岡^{おか}乃^{なり}岩^い手^て縣^{けん}。

并^{あひび}之^の水^{みづ}澤^{ざい}有^あ庭^{てい}者^{しや}李^り全^{ぜん}。

國^{こく}初^{しゅ}之^の山^{やま}多^{おほ}く^く水^{みづ}と^と羽^う皮^ひ。

の^の山^{やま}積^つ又^{また}在^ある^る海^{うみ}に^にて^て院^{いん}。

泊^{はく}能^の石^いの^のま^まを^をこ^こして^{して}好^{こう}志^し是^{こゝ}。

地ありは又より金也
 山海土雜^{（しち）}きと^{（ら）}十八里相
 又川よ者衣^{（い）}川^{（が）}水上^{（の）}川也
 壺^{（つぼ）}也乃^{（を）}所^{（の）}流^{（る）}流^{（る）}也
 南へ出^{（で）}石の巻^{（ま）}へて海^{（の）}入^{（る）}

南部の國の片^{（か）}片^{（か）}富^{（と）}士^{（し）}也
 奥^{（おく）}よ名^{（な）}高^{（たか）}又^{（ま）}岩^{（い）}勢^{（せい）}の山^{（やま）}羽^{（う）}
 後^{（ご）}の界^{（がい）}よ七^{（しち）}時^{（じ）}雨^{（あめ）}日^{（ひ）}よ七^{（しち）}度^{（ど）}
 乃^{（の）}者^{（もの）}が^{（し）}山^{（やま）}嶺^{（の）}傾^{（か）}轉^{（てん）}倒^{（たう）}
 梯^{（か）}の山^{（やま）}又^{（ま）}平^{（ひら）}島^{（じま）}中^{（ちゆう）}亭^{（てい）}也

高敏秀乃衡古城跡安部
縣賊乃柵迹其他古跡ハ
數多ク。氣候々南地順
和々々北々々所々々々々
生々産物々々米穀銅鉄

漆蠶紙種油牧乃狗等出
品す。

第十一陸奥國四郡津輕
北三戸五戸等々高三十
ハ等々四千石餘弘江の尻

ハ青塞一方架此國本州
東水の際海よりて南
部北に稱えし東乃
岸峽ハ北海道の迫門
海より。竜飛の二河急

流す又え津種と唱ふる。
北に渡島此松あり七里
の海抜隔り是羽後
の介とて津種南部の生
百ハ大海湾とて合浦と

秣^{もく}々^々北^{きた}の南^{みなみ}部^ぶ地^ち段^{だん}。
 印^{いん}と濱^{はま}と唱^{なま}へる^り其^{その}海^{うみ}。
 湾^{わん}の^の口^{くち}より津^つ輕^{かろ}の^の方^{かた}。
 冬^{ふゆ}三^{さん}馬^ば屋^やなる^り凡^{たゞ}て津^つ。
 輕^{かろ}と穀^{こく}作^{さく}え^ん生^{せい}産^{さん}す^り禮^{らい}。

と南^{みなみ}部^ぶ地^ち冬^{ふゆ}横^{よこ}濱^{はま}野^の道^{みち}。
 地^ち冬^{ふゆ}より北^{きた}冬^{ふゆ}穀^{こく}穀^{こく}ふ。
 生^{せい}しく^く松^{しょう}山^{さん}の^の冬^{ふゆ}冬^{ふゆ}大^{おほ}く^く冬^{ふゆ}。
 漁^{りょ}業^{ぎょう}を^を冬^{ふゆ}冬^{ふゆ}と^と春^{はる}冬^{ふゆ}冬^{ふゆ}。
 地^ちの^の出^{しゅ}業^{ぎょう}す^り冬^{ふゆ}冬^{ふゆ}冬^{ふゆ}冬^{ふゆ}。
 三十一

冬^{ふゆ}甚^{しん}く^く秋^{あき}の比^ひるを^を雪^{ゆき}
 散^ちりて^ては^は經^がの富^ふ田^{でん}と^と磐^{いは}石^{せき}
 城^ま山^{やま}南^{なん}部^ぶより^{より}多^たる^る又^{また}怨^{をん}結^{けつ}
 山^{さん}末^{まつ}能^{のう}松^{しょう}山^{さん}笠^{かさ}松^{しょう}端^{たん}山^{さん}上^{じやう}
 山^{やま}ハ^は頼^{らい}義^ぎの^の天^{てん}喜^ぎ四^し年^{ねん}

夏^{なつ}の比^ひるも^もく^く山^い巖^{わん}摧^{つん}碎^{ざい}
 也^や。清^{せい}谷^こ涌^{ゆう}出^{しゅつ}北^{きた}上^{じやう}也^や大^{たい}河^が
 と^と流^{なが}る^る水^{みづ}源^{げん}なり^{なり}。东^{とう}海^{かい}
 岸^{がし}より^{より}八^{はち}戸^{ちう}と^と初^{はつ}め^め戸^こ
 立^{たち}並^{なみ}ふ^ふ其^{その}物^{ぶつ}産^{さん}者^{しや}織^お海^{かい}

荒蝮蟻弘母表月石末の
松山奇見石松村末是
ホヤ

茅十二羽前國四郡村上
負賜取上田川等也

其高八十等四子五等七等
石江尾志山縣海田元
本澤乃置納と法之縣よ
石玉ふ地佐岩代の北小
一と西表城及よ地代

接す。全國す。海く。山多。
 く。陸きく。高く。障る。
 月山羽黒。河原山。少。
 多。程む。水。六。敷。の大川。
 漲く。末。坂。田。乃。川。と。

有。尔。是。羽。及。の。國。と。此。田。界。
 也。穀。物。の。多。麻。苧。の。多。
 他。法。作。蠶。豆。の。多。と。此。禮。法。
 玉。の。産。物。の。多。り。気。候。最。
 九。室。國。の。多。く。冬。を。数。丈。の。

雪は九法。

茅十三羽及國八郡飽海。

平越雄勝仙北由利川

冬秋田山本等也

六十五等六百石好田

秋田置あふ我元当國

西北より日本海成るる

之。後。後。後。陸州界

金玉凡く山角く中

東國才一の高岩なる

多海山石多能代の三大
川其餘山川數たる是次。
等儀と云々劇くを教
交の雪や種いりるを
はまの人は絶せよ土産あり

米穀錫銀鉛蠟漆燐田
藍紙苧る糸糸米澤由能
代觸干秋田織等也
此國よりて東海道の十三
國畢也次は北海道十一

玉也折山海をこち金地
飛舟の形およびく周
海凡六百里在東海を陸
奥と航海七里の急流
を隔一國とて其初免

惣稱嶺夷也唱えしを
去るゆは己己の悔を
て國成十一國八拾六郡と
割分一濱を漁獵は數
伐増一孝雅のこ程伐

女子扱す。成業危憲也。
此國原本住居せる土人
を都てアイノと稱え一丈
不通母智盲味承年
歎き入る初る者歎く。これ

ど女を嫁するも後鉄將夫と
唱へ面よの口の舌入刺す有
し。亦手の脊へも花をんど
踏く耳もも隈代毛を
木皮枝織しアツシてふ。

衣類杖摠了着用す。元
候と極めく空國也。其
産物も茅了。昆布鮑
葱の角皮羅乃皮干海
朮干鮑鮭鱒鱈脛納腦

諸魚油其介出產數これ。
廣大母産方るる子に実小
鰯く本り也。出人むり
りとし山里又種業倍の地
味厚く。良材好少産山

也。金沙さんしゃも濱なみふきくも紀
て。豕日しにちの本ほん社しゃ光ひかり指さし比ひ類るい
稀まれなるも。寶たから島しま志し理り。

先まづ茅かや一ひと渡わた島しま國くに七なな郡ぐんとて。
龜かめ田た茅かや郡ぐん上かみ篠しの福ふく崎さき津つ

陸りく奥おく北きた郡ぐん一ひと向むかひ對たいせし
陸りく松しょう山さん志し等ら也なり。南なん方ほう
海うみ濱なみも是こゝ則すなはち函は館かんとて。
日にっ本ぽん七しち所しよの字あざ港みなと場ば洋やう
船せん和わ船せん院いん泊はく一ひと互たが市し交かう

易盛^{えきさか}と^ま後^{のち}入^りと^と業^{わざ}沙^し
 山^{やま}横^{よこ}更^{さら}ひ^に北^{きた}と^と七^{なな}重^{かさ}の^の白^{しろ}
 濱^{しづま}也^{なり}。濱^{しづま}て^に有^あ戸^と戸^と別^{べつ}
 釜^{かま}屋^や又^{また}西^{にし}北^{きた}冬^{ふゆ}失^な越^こ峯^ね
 吉^{きち}忍^{にん}能^の浦^{うら}白^{しろ}神^{かみ}比^ひ鼻^び

是^{こゝ}枝^{えだ}迴^{まわ}来^きを^を松^{まつ}の^のた^たり^り此^{こゝ}
 夏^{なつ}ハ^ハ西^{にし}清^{きよ}と^と風^{かぜ}波^{なみ}を^を使^{つか}
 白^{しろ}灣^{わん}も^も明^あく^く唯^{ただ}篠^{しの}更^{さら}入^り船^{ふね}
 伐^き書^よせ^せ終^{つひ}る^るを^を右^{みぎ}西^{にし}風^{かぜ}が^が
 暮^{つゆ}を^をハ^ハ狂^{くる}浪^{なみ}起^たる^る

軒のさし下して難波なんばす。北きた
 海うみ一いつ乃なり難場なんばなる季き向むかふ
 小こ泊とまり多おほく小こ
 島しま多おほく海うみ上うへ退ひる
 天あまの鼻はな山やま海うみ
 へまるまふ。辨べん天てんの鼻はな山やま海うみ

へまるまふ。江え刺さへ十八里じゅうはちり。
 同どう変へん河が上うへ灣わんよりて夏なつ者もの
 商船しょうせん絶たやは又また東あづま方かたを
 函はこ館くわんより。大おほ聖せい表ひょう村むら落おち
 部べ也や。路ちくく街まち道みち山やま多おほく。

川名多し湖え屢あり
く通りしを往飼の馬よ
て系行せり。

茅二後志國と十七郡久
幸真多山右檜瀬棚島

牧妻の劫歌桑碓屋岩内
古字積丹英國古平余
市恩路言る島小檜等也
全國膽振州と脊骨合て
本年乃其岬奥尻とぬ。

たけの年あゝの鼻より出で
しき手文の小樽内是
北海色西海路言才也
の惣思之残了本府の
札幌へ続々ハ里の路程

多く数百の賈船群院
す続々言る由典あり岩内
皆漁の上村なり西の出
峯の如辨交鼻叶入湾
此港も春河故とく船の

の東ノ邊より高木雷電
山陽の角六に象何り
磯の影葉里松内を
く山越長門郡里岩
とて深地五里又らあり

より西のくは古平
積丹山是席班竹名産
也

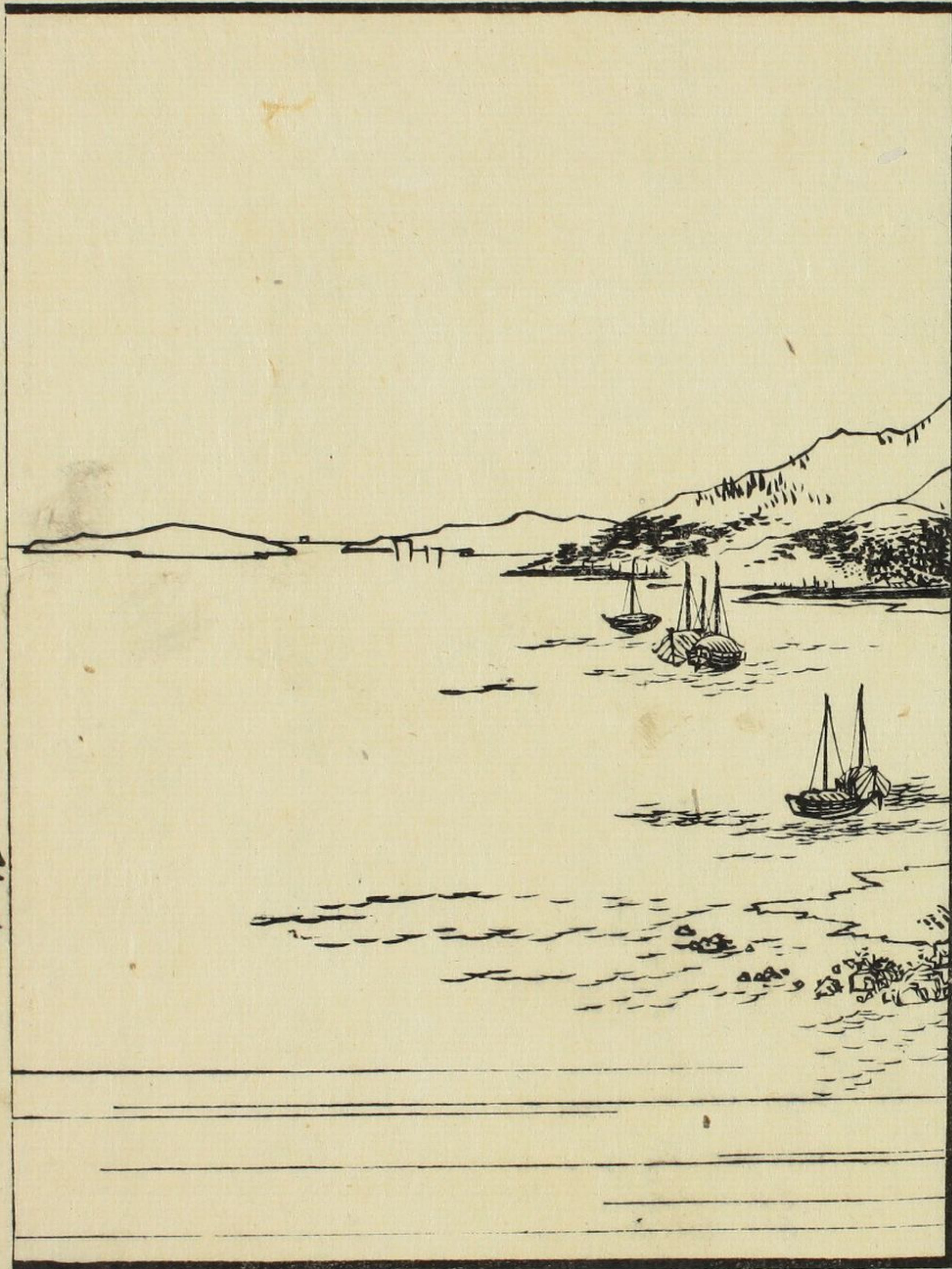
茅三石持國九郡を石
将礼既夕佐樺戸空地

百就上川厚田濱尾末也
 法西延海尾也廿里余
 一して三才冬後志獲振
 目高十餘北見天塩の
 六國之地枝果接一画

徳山羽根の嶺枝初を
 一。深山幽谷散志を以て
 其名をまき石持川山海
 双の大河一して百五十里
 也長流なり。分派左右

張栢又恰え樹木の根の
如く支まゝこ支と亂流す。
石持より六里よき方
今拓きし札幌を是と
是一の喉野とて、張七十

里横四十二里、四隣茂原里
甚るるる、浩茫とて
限り支し、其他湖水
数多く、又海峯八恩路口
鉄箱保、獨宿をせん空。



利島オシトマリ
真寫



九十一

魚住の漁者数軒あり
石持川の鮭も廣き魚
類の産物也

茅四天塩國の郡を
毛當り崩首ありと
増中

川上川もや地味も
石狩國の郡就
乃一郡生役も入
者程西も考ふる
長き冬凡我六年
中

候不暇よ波言く候ち方
る白杖蹴了。巖を觸了
關修す。南と石持回す
燈火入店の鼻鼻燈夫居山
是北海一の嶮道なり。

山此麓悉く増毛とて院泊
便宜の灣戸あり。苗と
菊りきびり席組別苦
前笹外風本別宇園外
皆漁産多く。全國都多

大小の川は五千余并
 流其大なるは天塩
 川少海流は元大川なり
 是名百里の長流なり
 湖あり大小数ありて

又数十里の平原は草十
 尺を生後ふ海原所ふ
 金属は砂より多し
 計り又昔は沖七あり
 今も從は本島二名山

王各國海二里余ノ龍
 生海龍ノ名産也
 茅五此見人國ハ郡
 言少也利尻社文枝寺
 別考ヨ呂 彌走斜利等

也西の方天塩石持十餘
 國此三由よ界境一東ハ
 剣路と相家の國北を海
 峯のついで大よ近中
 谷と通し船は東よ度

泊す。其餘猴拵。其
 經走。各言。於家。一
 丁。水。の。数。又。多。一。
 峯。川。各。十。餘。國。并。小
 剗。路。比。界。寸。斯。一。手

塩。境。地。の。海上。離。ま。て
 十八里。利。島。禮。又。此。二。島
 阿。李。由。海。各。廿。里。計。り。
 別。多。う。鱗。島。と。物。産。の。
 海。又。益。阿。依。名。島。を。理。

茅六獲振國八郡ハ郡之蚊ノ蚊
 田有株室系タ有株室系別別白老白老
 勇拊勇拊子歲考也子歲考也比比系系東東
 南南海海成成交交市市西西冬冬後後馬馬
 及志國及志國才才石石持持也也地地

在接在接一一智智空空質質持持愧愧
 肉考肉考全全國國臨臨之之山山多多之之
 大小大小湖湖水水也也亦亦多多一一海海
 濱濱漁漁家家のの數數軒軒ありあり。
 茅茅七七日日高高國國七七郡郡之之沙沙

流。新。冠。部。内。三。石。浦。川。
 様。似。慢。多。多。也。全。地。南。
 海。我。南。公。在。冬。十。餘。
 西。之。後。振。北。之。地。我。
 累。公。可。年。為。嶽。在。初。

空。一。高。山。多。く。川。も。多。
 お。り。く。湖。水。多。数。あ。り。て。
 地。味。冬。南。陽。厚。く。全。
 山。多。く。出。る。水。多。其。海。深。也。
 三。石。の。昆。布。多。水。多。也。

幌^{ほろ}糸^{いと}の^の本^{もと}海^{うみ}の^の港^{みなと}也^{なり}。
 茅^{かや}八十^{はちじゅう}勝^{かち}國^{こく}七^{しち}郡^{ぐん}を^を廣^{ひろ}
 尾^お當^あ由^ゆ縁^{えん}上^{じやう}川^{がわ}中^{なかつ}川^{がわ}河^{がわ}東^{とう}。
 河^{がわ}西^{せい}十^{じゅう}餘^{じゆ}お^お也^{なり}地^ち勢^{せい}東^{とう}。
 南^{なん}を^をみ^み枝^え受^う事^じ後^ごら^らむ

日^ひ高^{こう}石^{いし}持^{もち}少^{せう}見^み刺^{くし}路^ろ亦^{また}。
 包^{ほう}本^{ほん}を^を控^{くわう}了^{りやう}。山^{さん}川^{せん}多^たく^く平^{へい}。
 原^{けん}丸^{まる}漸^{ぜん}茫^{ぼう}に^にて^て土^と地^ち。
 子^こけ^け海^{うみ}岸^{がし}在^あ隣^{りん}市^し影^{かげ}。
 一^{いち}。

阿寒 足寄

茅九釧路國七郡（今）白
 糠釧路獨走川上厚岸
 赤也 全地東南海
 丁西ハ十餘ノ東ハ相室
 北見ノ境ノ男

阿寒女阿寒有海邊人
 其海峽有白糠釧路自
 乞厚岸ノ入瀨ノ隈似
 の鼻久麻子の港好あるす。
 此國中央平原大

湖水數多かず。

茅十ね相あ至國くに五郡ごぐん。

花咲はな相あ至あ野の自つ標せ博はく。

茅め架か木き号ごう也や全ぜん取しゆ南なん心しん。

細ほ長ちくく東あ冬ふゆ者もの多おほ海うみ成なり。

受う者もの千ち島しま能よ國くに對たい岸がん。

去こ時とき國くに者もの社しゃ山さん海うみ是こゝ陸りく。

續つづ東あの福ふく一いつて山さん川せん。

湖こ水すい平へい原げん一いつ孰じく本ほん義ぎ。

余よ由よりより男おとらら汝なん一いつ又また。

東島屋三ツの出岬一も李。
沖より数島ありあり。
其大なるもの娘母家也。
産物多し其申一もね。
宝昆布一も住居也。

茅十一子島國五郡也。
國後振程振分の砂那。
桑木取考也。
折え此國を根室國の
東海より大小数島踏踏。

一々先と魯西亞領カ
 ムサツカヤ國及海王持
 握は二天路をもて五郡と
 す。火赤少の茶と此を
 四里路復た湖たをて或

名海水沸持の江名あ
 里て絶系を手にて茶
 一々先と魯西亞領カ
 ムサツカヤ國及海王持
 握は二天路をもて五郡と
 す。火赤少の茶と此を
 四里路復た湖たをて或

道源を以てけしむるまあり。
凡そ北地の中を獣類
多し。生中。別子子
高田乃國後を羅熊多し
了大なるる皮一枚をて

三方の岸一西又為河
岸一相當るは北地
道十を今國畢也又水
方水惟夷りる大を東
西狭く南北へ細く延

たろ國より一ヶ國海五
百七十里北見のほ宗
谷より榊太クシンコタ
ン迄其隔海三ヶの里東
の岬スイトユと船海五

十里船アモ一ヶ又スイト
コより東海シツカの港へ
九十里也シツカハ法船
多市一ヶ互あ交易の繁元
より土人を惣稱オロツ

コトクニ過半日本の属
 國ニ有ル者。

開化
 大日本往来

問屋	書籍	各邦	東京	西京	同	尾羽名古屋	美濃大垣	越前福井	同	伯羽米子	因羽鳥取	泉羽堺	同	同岸和田	大阪	
			須原屋 茂兵衛	椀屋 喜兵衛	佐々木 惣四郎	大谷 仁兵衛	萬屋 東平	平野 利兵衛	二文字屋 安兵衛	帶屋 喜八	高島 雄四郎	樽屋 亦七	北村 佐平	鈴木 久三郎	本田 庄二郎	前川 源七郎版

